

めだかの教室

「めだかの教室」って…

「めだかの教室」は、学校ではありません。

学校に行きづらくなっている子は…

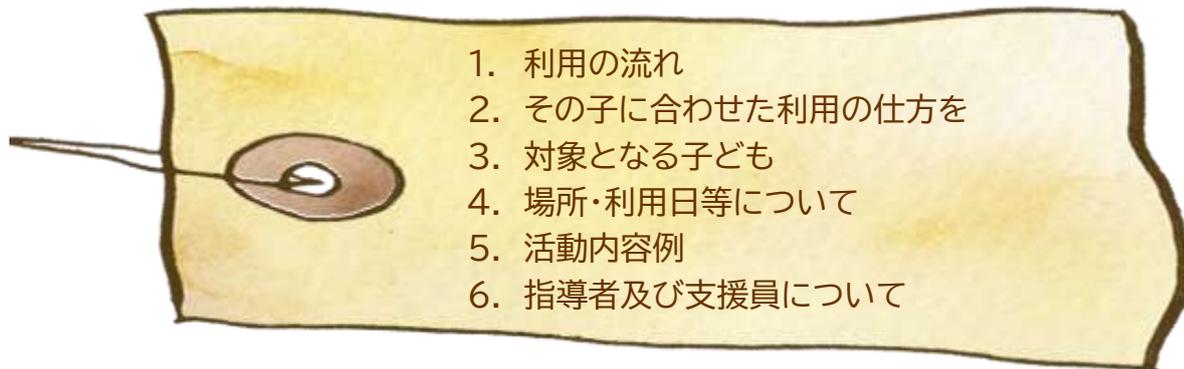
他者と場や時間を一緒に共有することが苦しかったり、自分や外に向けたエネルギーが大人が想像する以上に少なくなっていたりすることがあります。

「めだかの教室」は…

まずは安心できる居場所であり、エネルギーをためる場。

気持ちを共有できる大人や仲間との関係をつくる場。

そうした場での経験を積み重ねて、自分や外に向けて気持ちと体が向かうように、伴走します。



1. 利用の流れ

学校に行きづらくなる理由は子どもたちによって、まったく違います。その理由が分かりにくかったり言葉で伝えることができなかつたりすることも多いです。また、今の自分をどう捉えてよいのか分からないと訴える子どももいます。

そうした一人一人の子どもたちの声や姿に耳を澄ましながらか寄り添いながら、子どもたちや周囲の取り巻く大人の方たちと、利用の仕方について考えていきます。

学校の紹介から

① 学校から保護者に利用を紹介し、

保護者の希望があったら・・・

○所属校、教育委員会の開催する支援会議にめだかスタッフが参加し、経過とめだかの教室を紹介する目的を確認する。(主治医や SC 利用がある場合はその見立てを含める)

保護者の希望から

① 保護者から利用の希望があつ

たら・・・

○所属校に連絡をし、所属校と教育委員会の開催する支援会議にめだかスタッフが参加し、経過とめだかの教室を利用する目的を確認する。(主治医や SC 利用がある場合はその見立てを含める)

②保護者とめだかスタッフと個別面談・施設見学

- これまでの経過や保護者の思いや本人への希望をお聞きする。
- 「めだかの教室」の意義や、保護者の希望を確認する。
- 保護者とともにも今後のプランを検討する。

③体験利用

- 1 時間程度、本人と話をしたり遊んだりすることとおして、施設見学を行う。

④利用申請

- 方法や頻度などを本人、保護者、所属校と相談し、決定する。

2. その子に合わせた利用の仕方を

それぞれの子どもの不安などを減らし物事に向かうことができるようになることを目指します。めだかの教室の場での経験を積み重ねていく子どもたちに、伴走します。

この過程では、子どもそれぞれのペースを尊重し、その子が目指す方向に沿って進めていきます。

○実際に「めだかの教室」の場にやってきて。

○午後から(その子の行きたい時間に)「めだかの教室」にやってきて。

○「めだかの教室」で本人のときどきの様子にあわせて、個別対応で。

○在籍する学校と「めだかの教室」を本人の様子にあわせて利用。

○めだかスタッフが家庭訪問をして関係を徐々に構築して。

○「めだかの教室」にいるスタッフとオンラインでの活動を。

○在籍校との連携を図り、本人にとって無理のない適切なサポートを。

3. 対象となる子ども

小学生、中学生、高校生

4. 場所・利用日等について

○来島保健センター

○月曜、木曜の週2回

○午前9:30～午後3:00

(ご本人の利用したい時間帯での利用が可能です。)

○学校の長期休業中も開所します。(学校の閉庁日以外の長期休業中)



来島診療所・飯南町社会福祉協議会となりの建物です

5. 活動内容例

○学習:一人ひとりに合わせた学習を学校と相談しながら進めます。

○スポーツ:卓球などをして、体を動かします。

○体験活動:ボードゲームなどを通して、コミュニケーション能力をつけていきます。

○そのほか:制作活動や調理活動を計画して行います。

6. 指導員及び支援員

○指導員(主に学習支援を行います)
飯南町学習支援館講師



○支援員(主に支援、相談を行います)
飯南町教育委員会 公認心理師 大野 順子



問い合わせ先

飯南町教育委員会 TEL0854-76-3944 (担当 大野)



1階の部屋には、様々なボードゲームや物づくりの道具、卓球台など設置しています。その子の「やりたい！」を大事にします。



2階には学習スペースを設置しています。それぞれの子どものペースで支援者と学習を進めます。



物作りが得意な中学生が、地域の保育所に出かけて「〇〇お姉さんのプラバン教室」をしました。



入試に向けた面接練習を積み重ねました。本番の面接試験に向けていろいろな大人との練習で自信をつけていきました。